幡中だより
あやめ
～since 1999～

第 309 号
令和７年３月６日
瀬戸市立幡山中学校

大地に根を張り、未来へ伸びよ

瀬戸市立幡山中学校長　梶田　明敬

先日、3年生にとって中学校生活最後の全校集会がありました。弁天池の上に建つ体育館は、この時期、身に染みる寒さを感じます。「こんな思いをするのも最後なんだな」と感慨深く子どもたちの姿を眺めながら、私はこんな話をしました。

『新聞記事で紹介されていた、瀬戸市出身であり専門学校で写真を学ぶ若者の卒業写真展を見に行ってきました。彼の写真は、能登半島地震やその後の水害で被災した石川県輪島市の様子を撮影したものでした。その写真に映る輪島の人たちは、笑顔いっぱいで力強く、不安や悲しみを乗り越えようとする強いまなざしをもっていました。

なぜ、彼はこんなにも素敵な表情を写真に収めることができたのでしょうか。それは、カメラを向ける前に、ボランティアとして後片付けを手伝ったり、地元のお祭りに参加してお神輿を一緒に担いだりと、地域の人々との心の通い合いを大切にしたからです。何かを成し遂げるには、周りの人との心の通い合いが大きな力となるのです。』

夢や希望を叶えるための一つのヒントとして、そんな話をしました。

実は、彼の写真の中にもう一つ印象的なものがありました。それは、青空のもと、ススキが風に揺れる風景を収めた一枚です。ススキは、彼の写真集のタイトルにもなっており、その思いが込められた特別な写真でした。

皆さんは、ススキの花言葉をご存じでしょうか。それは「活力」です。ススキは、しっかりと地面に根を張り、細い茎をまっすぐに伸ばします。そして、風が吹いてもしなやかにしなり、元の姿に戻るのです。彼は、その姿を輪島の人々の生き方になぞらえ、写真集のタイトルにしました。

今年度、本校の重点方針は「レジリエンス」でした。逆境や苦難に負けず、しなやかな心を育てることを目指してきました。

中学生という多感な時期は、「このままでいいのか」と生き方に迷ったり、周囲と比較して落ち込んだり、親離れしようと背伸びをしてみたり、大人から見ると危なっかしいものです。これまで培ってきた自信やプライドが「ポキン」と折れてしまうこともあるかもしれません。しかし、それを乗り越える力を身につけてほしい――それこそが「レジリエンス」です。

学校評価アンケートでは、「たくましく生きる」という項目が昨年と比べてやや低下していました。まだまだ道半ばではありますが、それだけ学校として意識して取り組んできた証でもあります。

3年生は卒業してしまいますが、この一年彼らに伝え続けてきた、ススキのように「しなやかで、たおやかな心」を忘れず、これからの人生を力強く歩んでいってほしいと思います。卒業おめでとう!

１年・１組　ボッチャを楽しもう！交流会

２月４日（火）　５・６限

今年度も、パラスポーツの普及と研究に携わる藤田先生を講師に招き、実際にボッチャを体験する交流会を実施しました。「工夫次第で誰でも楽しめるスポーツ」を合言葉に、生徒たちは仲間とともにボッチャの奥深さ・楽しさを実感しているようでした。

２年　救命講習会

２月１９日（水）　５・６限

今年度も、瀬戸市の消防士の方を講師に招き、２年生を対象とした救命講習会を行いました。AED の使い方、心臓マッサージなどを実際に行って、いざという時に迅速な対応ができるよう、生徒は皆真剣な表情で話を聴き、実習に取り組んでいました。

卒業生を送る会

３月３日（月）　５・６限

全校が一堂に会する最後の機会である、卒業生を送る会が体育館で行われました。生徒会が中心となって進行し、１組は応援メッセージを、１年生、２年生、３年生は合唱を披露しました。在校生と卒業生との心が通い合う、温かな雰囲気の会でした。